

平成26年度

施策評価マネジメントシート(平成25年度の実績評価)

記入年月日

平成 26 年 6 月 10 日

施策No.	政策名	安心と安らぎのある健康福祉社会づくり	主管課	介護長寿課	主管課長名	来栖 啓
206	施策名	高齢者福祉の推進	関係課	健康推進課、社会福祉課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	高齢者(65歳以上の市民)	①65歳以上の人口	人	見込値 実績値				11,985 11,831	12,180 11,814	12,375 11,774	12,570 12,058	12,762
的	施策の意図	成果指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	健康で生きがいを持って生活してもらおう	①生きがいを感じている高齢者の割合 ②要介護認定率	%	目標値 実績値			76.0 75.3	76.4 75.8	76.8 76.7	77.2 79.2	77.6 77.0	78.0 15.0
成果指標設定の考え方	○生きがいを持って生活してもらっているかどうかは、アンケート調査①「生きがいを感じている高齢者の割合」で把握する。 ○健康面については、②「要介護認定率」で判断する。											
成果指標の把握方法と算定式等	○「生きがいを感じている高齢者の割合」はアンケート調査(65歳以上) ○「要介護認定率」は介護保険の認定状況データ(3月末時点データ)											

2. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	1)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民や地域、行政と協働でやるべきこと)	2)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
	○高齢者の方に、生きがいを持って生きいきした生活を送り、自ら介護予防に努めてもらう。 ○高齢者の方に、経験や知識を活かし、ボランティアやNPO活動など、積極的に社会参加してもらう。 ○高齢者の方に、福祉サービスの適正な利用を心がけてもらう。 ○地域住民には、高齢者を見守ってもらう。 ○市民団体には、組織活動を活かして高齢者福祉活動に参加してもらう。	○高齢者の多様なニーズに適したサービスを提供すると共に、生きがいづくりの場を提供する。 ○高齢者を支援するボランティア、NPO活動を支援する。 ○民間事業者や地域団体との適切な連携のもとで、市内の福祉サービス環境の充実に努める。
状況変化	3)施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?	4)この施策に対して住民、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	・高齢化が進む。高齢者世帯や高齢者単身世帯の増加が予想される。 ・後期計画期間中に団塊の世代が65歳に到達する。介護サービスの利用等により財政負担が増大する。 ・平成23年度に第5期高齢者福祉計画・介護保険事業計画を策定したが、第6期の計画を平成26年度に策定する。 ・介護保険法が改正され国の方針として24時間サービス対応の地域ケア包括システムを構築することが掲げられており、今後事業を実施する場合は保険料に影響がある。 ・地域包括支援センターの役割が増大している。 ・要介護認定者が増えることにより、サービスの提供や受け入れる事業所も増加傾向にある。 ・高齢化の進展により、二次予防の対象者が増えて要介護認定者の増加も懸念される。	アンケート調査から、食事や睡眠、スポーツや散歩など自分の健康のために日頃から心がけており、健康への関心が強いことから、市民の介護予防意識は高いと考えられる。 ・第5期桜川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画によるアンケートの高齢化社会に対応した施策への意向調査から、隣近所の助け合いや、生きがいを持つ活動機会の整備、在宅での介護サービスの充実を望む声が多い。 ・市民アンケートの満足度、優先度調査の結果、優先度が高く、満足度はやや高い位置となっている。 ・民生委員からひとり暮らし高齢者に比べると、高齢者世帯への支援がなされていないという意見があった。 ・高齢者の移動手段としてデマンドタクシーの利用がしやすく、巡回バスの導入への意見がある。

3. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
① 高齢者の生きがいづくりの推進	元気な高齢者	健康で生きいきとした生活を送ってもらおう	生きがいを感じている高齢者の割合	実績値 %	75.8	76.7	79.2	77.0			
② 高齢者福祉サービスの充実	高齢者	安心して生活が送れる	要介護認定率	実績値 %	14.1	14.5	15.1	15.2			
③ 総合相談の充実	高齢者	不安を解消する	相談に対し解決した割合	実績値 %	59.5	66.3	66.0	78.8			
④ 介護サービスの充実と介護保険の適正運営	高齢者	充実した介護サービスが受けられる	適切な介護保険サービスが受けられていると答えた高齢者の割合	実績値 %		88.9	92.3	89.8			

4. 施策のコストの実績(施策を構成する事務事業シートより積算)

施策のコスト	項目	単位	24年度実績	25年度実績	26年度予算
	①本施策を構成する事務事業の数	件	42		39
②施策事業費(一般財源以外)	千円	2,968,227		3,070,345	3,339,344
③施策事業費(一般財源)	千円	499,256		508,115	560,963
④施策事業費の計(②+③)	千円	3,467,483		3,578,460	3,900,307
⑤施策人件費(事務事業の人員費合計)	千円	83,551		69,122	77,399
⑥ 計 (④+⑤)	千円	3,551,034		3,647,582	3,977,706

5. 施策に関連する主要事業等

関連する事務事業	区分	事務事業名	摘要
	事務事業	二次予防事業対象者把握事業	H25貢献度上位
事務事業	介護予防事業(元気あつぷ教室)	H25貢献度上位、H26優先度上位	
事務事業	高齢者生きがいと健康づくり推進事業	H25貢献度上位、H26優先度上位	
事務事業	ふれあい生きいきサロン事業	H25貢献度上位、H26優先度上位	
事務事業	高齢者ふれあい給食サービス事業	H25貢献度上位	

施策番号	206	施策名	高齢者福祉の推進	主管課	介護長寿課
------	-----	-----	----------	-----	-------

6. 施策の成果水準とその背景・要因

1)①現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<p>・平成25年度の65歳以上の高齢者数は、12,263人で前年度に比べると205人増加し、高齢化率が28.2%と1.2ポイント増加している。今後も65歳に到達する年代別人口が増え続けることから、さらに高齢化が進展していくと予想される。</p> <p>なお、65歳以上の人口のうち、介護が必要になると考えられる80歳以上の人口は4,282人で、前年度と比較すると23人増加している。</p> <p>・要介護認定率は25年度は15.2%で前年度より0.1ポイントの増加であるが、今後は高齢化の進展に伴い要介護認定率も伸びることが見込まれる。</p> <p>・生きがいを感じている高齢者の割合は77.0%で、24年度と比べると約2.2ポイント減少している。</p> <p>・生きがいを感じることは、「旅行や、買い物に出かけること」「近所の人、友人、知人とのふれあい」「家族とのふれあい」「趣味活動」である。この内容から、周囲の人とのふれあいや交流を図ることが高齢者の生きがいと介護予防に繋がっていると推察される。</p> <p>・アンケート調査結果で、「あなたは、日頃ご自身の健康のために日頃から心がけており、健康への関心が強いことから、市民の介護予防意識は高いと考えられる。</p>		

1)②成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてが上回った	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input type="checkbox"/> 目標値どりの成果であった	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> すべての成果指標で目標値を下回った
背景・要因	<p>・高齢者が生きがいを感じている割合は、目標値の76.8%に対して0.2ポイント上回っているが昨年度と比較して2.2ポイント減少している。地区別の状況を前年度と比較すると、岩瀬地区では79.0%で1.5ポイントの減少、真壁地区では78.7%で昨年同様、大和地区では68.8%で7ポイントも減少し、24年度でも3.3ポイント減少しているため、この2年間で10ポイント以上減少している。なお市が実施している事業では、ふれあい生きいきサロン事業による「近所の人、友人、知人とのふれあい」や高齢者生きがいと健康づくり推進事業の「趣味活動」等の高齢者サービス事業が、高齢者の生きがいづくりに貢献していると考えられる。</p> <p>・要介護認定率は、数値が低い方が良いが、25年度の目標値の15.0%を0.2ポイント上回る15.2%と、前年度より0.1ポイントの増加しているが、本年度の高齢化率は1.2ポイント増加に対して、要介護認定率は0.1ポイント増加であることから、介護予防事業等の実施による一定の効果であると考えられる。</p> <p>この要因としては、介護予防事業の二次予防事業対象者把握事業で、二次予防対象者をチェックリストにより対象者を把握し、より多くの対象者が介護予防事業教室に参加することにより、今後も高齢化が進むなかで、要介護認定率の上昇を抑える効果が期待できる。</p>		

2)他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 他の自治体とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり低い水準である	
背景・要因	<p>・25年度の高齢化率は28.2%で、県内市町村44市町村中16位と高い。(県平均25.4%、全国平均25.6%) 近隣の筑西市は26.6%で21位、笠間市は26.9%で19位である。前年度と比較すると、桜川市では1.2ポイント、県でも1ポイント全国平均0.9ポイント、筑西市では1.4ポイント、笠間市は1.5ポイント上がっている。</p> <p>・要介護認定率は、桜川市15.2%で県内で14位と高齢化率と同様に高い。県平均は14.6%、筑西市では15.1%で15位、笠間市は14.6%20位である。</p> <p>・県内で同様の高齢化率である北茨城市(28.4%)と比較すると、要介護認定率は16.2%で桜川市は1ポイント低い。</p> <p>・近隣の市町村と比較すると高齢化率は筑西市・笠間市よりも高いが、要介護認定率は両市とはほぼ同水準である。このことから桜川市は高齢化率は高いが、要介護認定率は同水準であることから元氣な高齢者が多いと言える。</p> <p>・要介護認定率が近隣の市町村と同水準である要因としては、一般高齢者及び二次予防事業による介護予防事業取組みや、市民が自分自身についての健康への関心の強さが推測される。</p>		

3)住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準なのか、同程度なのか、低いのか)、その他の特徴は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の期待とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり低い水準である	
背景・特徴	<p>・市民アンケート調査で「日頃ご自分のために、何か心がけていることがありますか。」「の間に、特に何もしていない」と回答された方が4.3%と、昨年の12.1%と比較すると7.8ポイント減少している。また「自分自身が健康で元気に暮らしていると思いますか。」「の間に、特に何もしていない」と回答された方が75.1%で、昨年の78.4%と比較すると3.3ポイント減少し、昨年より8ポイント減少し年々減少している。高齢者が生きがいを感じている割合は、昨年度と比較して2.2ポイント減少しているが77.0%の高齢者が生きがいを感じていることから、現在実施している高齢者福祉サービス事業が、高齢者の生きがいづくりに貢献していると考えられる。</p> <p>・第5期桜川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画によるアンケート調査で最も意見が多かった高齢者の緊急時・災害時の支援事業として、「高齢者見守りネットワーク事業」を実施しており、平成25年度では9件の情報提供が事業所等からあり、それらの情報に基づき必要な支援を行った。また新たに17事業所と協定を締結しネットワークを拡大し、現在68の協力事業所等事業を実施し、多くの関係者で高齢者を見守ることで、緊急時や異変があった時には速やかに支援を行える体制づくりを行っている。また、ひとり暮らし高齢者の急病等の緊急時の支援として「緊急通報システム設置事業」実施しており、平成25年度では新規設置希望者16名に設置し支援を行った。</p> <p>・市民アンケートの満足度、優先度調査の結果、優先度が高く、満足度はやや高い位置であり、重点維持項目となっている。</p>		

7. 施策の成果実績に対しての、これまでの主な取り組み(事務事業)の総括

前年度の取組状況と課題	<p>・25年度は、「元氣な高齢者」を対象に「健康で生きいきした生活を送ってもらう」ことを重点的に取組みを行った。</p> <p>・具体的に施策の成果向上に貢献した主な事業は、事務事業貢献度評価結果から「高齢者生きがいと健康づくり推進事業」、「ふれあい生きいきサロン事業」、「二次予防事業対象者把握事業」、「高齢者ふれあい給食サービス事業」、「介護予防事業(元氣あふ教室)」であった。</p> <p>・これらの事業の主な取組みとしては、「高齢者生きがいと健康づくり推進事業」は岩瀬及び真壁福祉センターにおいて趣味講座等を24講座・年間558回開催し、延べ人数で5,475名が参加し高齢者の生きがいづくりに貢献した。</p> <p>・「ふれあい生きいきサロン事業」では、岩瀬地区では14ヶ所・大和地区では1ヶ所・真壁地区5ヶ所等々で実施し、年間276回開催し延べ3,278名が参加し介護予防体操や健康相談、口腔ケア教室や認知症サポーター養成講座についての講話を取り入れ介護予防に寄与した。</p> <p>・「二次予防事業対象者把握事業」は、市内に在住する65歳以上85歳未満で介護保険の要介護認定者を除く高齢者9,044名に対し、身体状況を確認するチェックリストを送付し、5,357名から回答があり回収率59.2%。その内二次予防対象者に該当した人は、1,337名で22.9%と、多くの対象者の把握に努めたが平成24年度と比較すると、チェックリストの回収率が19.4ポイント増加し、より多くの対象者を把握することができた。</p> <p>・「高齢者ふれあい給食サービス事業」は、市内に在住する65歳以上のひとり暮らし高齢者に対し、月1回福祉センター等において栄養バランスのとれた食事や介護予防体操を行いコミュニティの場を提供している。真壁地区では年12回事業を開催し延べ参加者数は467名、大和地区では14回開催し延べ参加者数は296名が参加し、ひとり暮らし高齢者の閉じこもり防止や栄養改善等の介護予防をおこなった。</p> <p>・「介護予防事業(元氣あふ教室)」は、二次予防事業対象者で教室参加者に、運動器の機能向上教室と口腔機能向上教室を実施し、平成25年度では5会場で59回開催し116名の参加者の機能向上を図り介護予防に努めた。前年度は参加者が100名であったことから比較すると16名増加している。今後も介護予防教室により多くの対象者に参加していただくのが課題である。</p> <p>・その他の事務事業として、一般高齢者の支援事業として「介護予防・生活支援事業」ではヘルパーの派遣や食事の提供し日常生活での支援や、「ひとり暮らし緊急通報システム設置運営事業」を継続して実施して新規10台を設置し、緊急時に速やかに援助を行えるよう支援した。</p> <p>・高齢者見守りネットワーク事業では、平成25年度に新たに市内の17の介護保険事業所と協定を締結しネットワークの拡大を行った。</p> <p>・「総合相談事業」では、高齢者や家族からの様々な相談に対応した件数は、平成25年度では相談件数102件に対し、適切なサービス利用に繋がる支援を行い、結果として36件の問題解決に努めた。</p>		
-------------	---	--	--

8. 今後の課題と方針

区分	今後の課題	今後の方針
施策全体	<p>・地域包括支援センターを中心とした介護予防事業を重点的・効果的に取組み、65歳以上の一般高齢者と二次予防対象者の要介護認定率の急激な上昇を抑制していく必要がある。また、利用者に対し必要な介護サービスが、事業者から適切に提供されているか等の確認・審査を行い、介護保険の適正化を図るとともに、保険料の確保に努める必要がある。</p>	<p>・高齢者が、住み慣れた我が家や地域で誇りと生きがいを持ち、元気で暮らすことができるよう、関係機関との連携により介護保険サービス及び在宅福祉サービスまたは家族介護者支援の高齢者福祉サービスの充実を努めます。</p>
基本事業	①高齢者の生きがいづくりの推進	<p>・高齢者が豊かな経験と知識・能力を發揮し、生きいきとした生活を送ってもらうよう努めます。</p>
	②高齢者福祉サービスの充実	<p>・高齢者が豊かな経験と知識・能力を發揮し、生きいきとした生活を送ってもらうよう努めます。</p>
	③総合相談の充実	<p>・地域包括支援センターの窓口では、高齢者や家族からの相談に専門的知識をもった職員が対応し、関係機関との連携を図り問題解決に努めます。</p>
	④介護サービスの充実と介護保険の適正運営	<p>・介護保険制度の趣旨に基づき、利用者に対し必要なサービスを提供し、またサービスプランの適正な運用に努めるとともに、保険料を確保し適正な運営を図ります。</p>